

平成26年度第4回 青森県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

（開催日時）

平成26年8月27日（水） 13時30分～16時00分

（開催場所）

青森県庁議会棟6階 第1委員会室

（会議次第）

- 1 開会
- 2 議事

【公立大学法人青森県立保健大学関係】

- （1）平成25年度業務実績評価について
- （2）第一期中期目標期間業務実績評価について

【地方独立行政法人青森県産業技術センター関係】

- （3）平成25年度業務実績評価について
- （4）第一期中期目標期間業務実績評価について

（出席委員） 昆委員長、久保委員、吉井委員、三和専門委員、
大関専門委員、鈴木専門委員（9名）

（県出席者） 健康福祉部健康福祉政策課 菊地課長 ほか
農林水産部農林水産政策課 油川課長 ほか
商工労働部新産業創造課 三浦グループマネージャー ほか
総務部行政経営管理課 齋藤課長 ほか

（法人出席者） 青森県立保健大学 鈴木副理事長 ほか
青森県産業技術センター 佐藤理事長 ほか

（議事要旨）

1 青森県立保健大学の平成25年度業務実績評価について

○昆委員長： それでは、議事に入ります。議題の1は、「平成25年度業務実績評価について」です。平成25年度の業務実績に関する評価ですが、この年度における中期目標の実施状況の調査・分析を行いまして、その結果を考慮して、全体の総合的な評定を行うことになっております。

法人から提出された平成25年度の業務実績報告書に基づきまして、法人ヒアリングという形で調査・分析を行ったわけですが、その後、各委員に評価意見を事務局に提出いただき、それを事務局でまとめていただきました。そういった平成25年度業務実績評価書の案をもとに修正、その他の意見交換を行い、最終的な評価書へとまとめていきたいというのが、本

日の作業です。

まず、この業務実績の評価の進め方としましては、大項目別の評価を審議した上で、全体の評価を決定していく。そのような段取りでいきたいと思っていますので、まず大項目の1から順番に審議をして参りたいと思います。

それでは、資料1を開いていただきまして、最初の方に評価の基本的な考え方ですとかそれから全体評価、総評というところがありますが、まず5ページですが、「項目別評価」の大項目1から順に審議していきたいと思います。

この項目ですが、「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）」ということでまとめています。ここのところをまとめますと、どちらかといいますと、教育に対する実績というものは、非常に高いものがある。それは、各委員が認めているところです。それで、教育に対しての各種取組につきましても、法人が意欲的に進められていると。その結果が非常に高い国家試験の合格率や就職率等にも表れているのだと。

したがいまして、非常に良い成果をあげているということがよく理解できるというのが、各委員の意見の中にも見られるところです。ただ、それが評価に繋がっているのかということになると、残念ながら、法人の自己評価でもA評価が39項目でしたでしょうか。それからB評価が10項目というふうに、B評価が非常に多かった。これは、委員の指摘を待つまでもなく、当初設定した数値目標が非常に高いところにあったと。従いまして、法人としても、「B」と書かざるを得なかったところが数多くあったのだらうと思います。それで、高い数値目標を目指した意欲は理解できるのですが、客観的な評価として見た場合には、成果は上がっているものの、非常に高い評価というところに評価を持っていくには、B評価が多すぎたのではないかという部分があり、多くの委員が「おおむね順調な進捗状況」というところに留めざるを得なかったのではないかというのが、全体的な意見です。

この状況を御覧いただきまして、各委員の方から意見や指摘などございましたら出していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○久保委員：今、昆委員長がおっしゃったとおりでありまして、成果としては、私も大変評価しているのですが、中期目標と比較した場合という観点からいいますと、やはり「おおむね順調な」というところになるのかなということであり、同じ意見です。

○三和専門委員：単純に計画だけを見れば、やっぱり大学院生の研究となったときに、それに関わる教員がどのくらい必要で、どのくらい時間をそれに取られるのかというあたりを考えたときには、教員の確保とすごい関係があるのではないかなと考えますので、この項目を高めるには、指導する教員との兼ね合いをもう少し考えていかないと、高まっていかないのではないかと感じました。

○吉井委員：評価する側として、本当に先ほど昆委員長がおっしゃったとおりだと思っています。

非常に高い達成率をそれぞれあげているというのも、私は事実だと思っています。しかし、その目標の立て方においては、そうならなかったということも事実です。

そういったときに、法人側の自己評価でB評価が多いということから判断しなければいけないという事実もあるのではないかと思います。そういったときの記載の方法、例えば、

こういう目標を立て、こういう取り組みをして、ここまでの達成率はあったが、しかし、こういう努力をもっとすれば、目標が達成できたのではないかというように、多くの共感とか理解を得られる表現の仕方というのが、非常に大事になってくるのかなと思っています。あとは、本当に昆委員長がおっしゃるとおりだと思っています。

○昆委員長：今、三和委員からも指摘がありましたように、高い数値目標を設定して、もしそれをクリアしようとするのであれば、何らかの教員の取り組みとか組織とか、そういうところにも工夫を加えて、新たな取り組みなどを展開する必要もあるのではないかと。その辺のところを、数値目標がどうしても達成できなかった部分というのは、また法人の方で捉えなおしていただきまして、今後、どういうふうにセットして先に繋げていくかというところを工夫していただければ、委員会としては、内容的には数値のように低い評価ではないのではないかと。これは、各委員共通した考えだと思いますので、是非、よろしくお願ひしたいと思っています。

それでは、委員会も「おおむね順調な進捗状況にある」ということでまとめてよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきます。

それから、大項目2でございます。「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）」に関してですが、このところは、各委員からの御意見等も踏まえ、一応、原案では評価「4」、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」と評価させていただきました。

ただ、この評価4という場合には、小項目別評価におけるS又はA評価が大体90%ぐらいが目安ではないかと思いますが、法人の自己評価ではS又はA評価が87.5%というような数値だったわけです。ただ、87.5%といっても、B評価が自己評価で1項目、A評価が7項目です。ですから、数が少ないものですから、一つでもB評価があると数値が低くなるというのは、これはやむを得ないところです。

90%までいかないとしても、ここを委員会として「順調な進捗状況にある」と委員全員が評価しているところは、中身の方を見させていただいたということが大きいかと思います。いろいろなプロジェクト研究が動き出しているとか、あるいは、論文等の数からいって、若干、目指すところに達していないかもしれないですが、その中身を見てみた場合には、必ずしも低い成果とはいえないと。相当の成果があがっていると認められるのではないかと。このところを捉えまして、これはほとんど全員の委員が若干数値としては、十分でないというところがあるにしても、これは「順調な進捗状況にある」としてよろしいのではないかと思います。委員の皆さま、それでよろしいでしょうか。それでは、この大項目2は「順調な進捗状況にある」といたします。

続きまして、大項目3の「地域貢献」ですが、「おおむね順調な進捗状況である」という評価となっています。というのは、ここもS又はA評価の割合というものが、73%ぐらいですね。ということで、若干、数値的に足りない部分が出てきているのではないかと。このところでもって、やむを得ず「おおむね順調な」というところに落ち着くのではないかと。このところも、なぜこのようなことになったのかなと考えてみると、国際交流等においては、社会情勢等の影響を受ける部分もあつたり、相手もあることなので、法人独自の努力だけではなかなか難しい部分もあつたりします。特に、保健大

学の場合には、単科大学でもあり、いろいろな学部が各々活動し、国際交流を展開していて、ある学部ではうまくいかなかったとしても、ある学部でうまくいっているところを拾ってあげれば、それをカバーできるというような、そういう状況ではない。一つうまくいかなかった事項が非常に大きなインパクトを持つというような組織体でもあるというようなところも勘案すると、中身としては、そんなに低いというわけではないのではないのでしょうか。

このところは、やはりもう少し年度計画そのものを見直すというのか、実現可能なところに目標設定を置いていただくための工夫をしていただきたいということを含めまして、「おおむね順調な進捗状況にある」という評価かと思えますけれども、いかがでしょうか。それでは、ここも原案どおり「中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある」と評価させていただきます。

それから、大項目4の「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、このところは、法人の自己評価でも全てA評価です。各委員もこの部分に関しては、「順調な進捗状況にある」というようなことです。ただ、運営体制の改善に関しては、監事監査とか内部監査とかの実施体制がせっかく整備されているわけですから、その実効性が高められるように、なお工夫をお願いしたいというようなところがありました。

それから、人事の適正化に関しては、先ほどもちょっと心配な部分がでていたのですが、教員公募でもなかなか適当な人材が得られないということで、公募人数9名に対して採用5名というようなことですので、教員の確保等も工夫していただければと。これは、なかなか大変なところもあるかと思いますが、その辺のところもよろしく願いますということも述べてあるのですが、目標としましては「順調な進捗状況にある」と。これに関しましては、委員から御意見、何かありますか。特になしと。それでは、「順調な進捗状況にある」ということでございます。

それでは、大項目5の「財務内容の改善に関する目標を達成するための計画」ですが、ここも一つB評価というのがありました。あとは順調にということで、自己評価S又はA評価が92%ということでした。それから、外部資金の導入ですとか、あるいは経費の抑制、効率化とか、そういう面も全体として順調な進捗状況にあるということでもって、ここは「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」という評価となっています。

これにつきましては、委員から何かございますか。

○久保委員：特に私、感心しましたのは、光熱水費の削減でありまして、実は、本学でもいろいろとやっているのですが、なかなか実行するというのは大変なことで、金額的には石油自体の高騰のために削減できませんでしたが、使用量を削減できたということは、皆さんの協力とか理解とか、実行するという、これは事務局サイドでしょうか、そういうところの一生懸命さ、徹底してやったというところ、そこに大変すごいなと思って感心しているところがあります。

○昆委員長：この経費の削減は、これからますます大変になるのではないかなと思います。石油とかも高くなる可能性がありますから。ですから、これをずっと第一期のように第二期も継続していくというのも、これは無茶な話じゃないかと思いますので、それは妥当な効率化ということでもってお願いしたい。ただ、あまりにも経費を節約しようというので、学内が

全部暗くなってしまうとか、それもまた困った事態になるわけですから。

ここのところは、順調に目標を達成してきているということでもって、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」ということですが、これでよろしいでしょうか。それでは、そのような評価とさせていただきます。

それでは、大項目6の「教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供」ということですが、自己評価も全てA評価ということですし、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」ということで、委員からも特に改善とか、そのような指摘もありませんでした。

また、学生による授業評価だとか、そういうものも実際に効果があがるような運用の仕方になってきているというようなことでしたので、ここも「順調な進捗状況にある」ということで評価してありますが、これでよろしいでしょうか。それでは、ここもこのようにさせていただきます。

最後に、大項目7の「その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画」ということですが、これは、施設整備関係、あるいは安全管理、情報セキュリティ、個人情報保護、人権啓発、法令遵守等、これらの各種研修会等を開催して、年度計画に沿って順調に行なわれたということでもって、これも「順調な進捗状況にある」というように委員が評価しております。ここもそれでよろしいですか。以上が大項目の評価でございます。

次に、全体の評価といたしまして、3ページに書いてある「全体評価」の「総評」のところを見ていただきまして、特に付け加えるところ、あるいは書き換える部分等の意見がございましたら、お出し願いたいのですが。

最終的には、年度計画については、中期計画の目標達成に向けて着実に実施したとの評価ですが、ただ、年度計画における目標と実績の間にギャップが生じている部分があって、その部分は、年度計画の目標設定のあり方をもう少し工夫していただけないでしょうかと。せっかく成果があがっているとみられるのだけれども、評価が「3」で終わってしまうというようなところ、それを指しているものとご理解いただきたいと思います。これは、平成25年度の評価ですので、第二期の中期目標期間の評価に向けて、その点を工夫していただければということでございます。

それから、学生の教育の充実、キャリア支援の強化等による各種国家試験とか就職率についての水準というのは、特記事項として評価させていただきました。

それから、地域特性に対応できるような、そういうものに対しての中核的な役割を果たすということが求められているということでもって、教育・研究拠点としての研究成果を広く還元したい、産官学の連携とか、その地域貢献活動というものが最初に書いてあるのですが、その辺のところも見据えて、今後、また業務を展開していただければということでございます。

それで、「業務の実施状況」なのですが、そこのところは非常に成果があがっている部分ですね。先ほども述べました内部監査規程を制定するなど、監査規程も整備されてきています。それから、財務内容の改善等も経費削減等に対する様々なそういう取り組みも行われております。点検・評価等も着実に実施されておりますということですが。

「改善事項等」については、現在のところ「特に改善勧告を要する事項はない」と、そのように判断させていただいておりますが、これにつきまして、委員の皆さま、どうでしょう

か。それでは、「全体評価」もこれでよろしいと。

そうしますと、これで平成25年度の業務実績評価はこれでいくということで、特に原案に修正がないということですが、後で字句の修正や、内容に係わらないような部分修正が出てきましたら、事務局と委員長で相談するということでお任せ願えますか。それでは、そのようにさせていただきます。

2 青森県立保健大学の第一期中期目標期間業務実績評価について

○**昆委員長**：議題の2、「第一期中期目標業務実績評価について」審議を行います。資料2を御覧になってください。中期目標期間業務実績評価は、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行って、その結果を考慮しまして、業務の実績の全体について総合的な評価を行うということになっています。

それで、資料2の第一期中期目標期間業務実績評価書の案ですが、これに則りまして進めていきたいと思います。これも、先ほどと同じように大項目のチェックをまずは行いまして、それで意見交換した上で、全体の評価というものを決定しようという段取りでいきたいと思っています。

資料2の5ページを開いていただきたいと思います。先ほどの平成25年度の業務実績評価書案と違ひまして、第一期の中期目標に対しての評価を確定するというところでもあるので、委員会がこういうふうに判断した根拠は、こうこうこうですというところを、やはりはっきりと分かるような形で示しておかなければならないという部分がございます。それで、これら进行评估するにあたりまして、大項目の評価は、やはりこれも5段階の評価なのですが、まず、「5」の評価に相当する部分は、「中期目標の達成において特筆すべき進捗状況にある」という、相当に全ての項目を達成した上に、更に特筆すべき成果をあげているというような、そういう状況にある場合です。それから、評価「4」は「中期目標を達成している」、目指した中期目標を達成しているのだということです。それから、評価「3」が「中期目標をおおむね達成している」、「おおむね達成している」というのと「達成している」というのはどの辺が違うのか、ちょっと微妙なところがあるのですが。それから、評価「2」は「中期目標の達成においてやや不十分な状況にある」というのは、これは、結構やらなかった部分がありますねという、そういう評価だと思います。それから、「1」というのは、「著しく不十分」というわけで、掲げた中期目標の相当数がやれていない、実施していないと。そういうふうなところが見受けられるというところです。

中期目標を「達成している」と「おおむね達成している」というものの違いというのは、「おおむね」というのは、やはり全体としてみれば達成しているとはみられるのだけれども、計画の中に達成できない部分が結構みられるのではないですか、というような、そういう場合だろうと思います。「中期目標を達成している」という場合は、全て達成しているというふうに読むか、あるいは、若干の達成していない部分があっても、その他の部分をもって全体としてそれはカバーできているのだというふうに読むかというところは、それは、委員会の判断によるところだとも思いますので、その辺も踏まえながら、少しこれを見ていきたいと思っています。

まず、大項目1の「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）」で

は、「中期目標を達成している」と委員会としては判断しました。

ただ、このところで、法人の自己評価におきましても、A評価が10項目でしたでしょうか。それから、B評価が2項目というふうに単純計算すると、83%ぐらいがS又はA評価ですから、17%弱ぐらいがB評価ということになります。そうすると、結構、中期計画の中では、達成できなかった部分があるのではないかというような指摘を受ける可能性もあるわけです。それを、中期目標全体として見た場合には、「達成している」としてよいのではないかと判断したというのは、先ほどの年度計画の中にもありましたが、数値目標として達成した部分が、非常に高い部分があったこと、また、各種国家試験や就職率など、ずっと高い水準を維持してきているというのは、教育の成果であること。それから、大学院生の指導というところでは、数値的に物足りないと思えるようなところが多々見られたわけですが、それも大学院生の学生の状況とか、そういうものを勘案してみた場合に、今、取り組んでおられるいろいろな教育の方策等について、今後期待する部分がある。これらを含めて各委員において、「中期目標を達成している」と評価してよいのではないかという意見が多かったわけです。

この辺のところ、委員会として、これを「おおむね達成している」ではなく、「達成している」と評価した部分は、中期計画の数値目標に対しては及ばなかったところがあるが、その中身を精査した結果、非常に高く評価できる部分をいくつも拾い出すことができるというようなことから、これは「中期目標を達成している」というふうに判断したと、そのような考えでよろしいのかどうか。久保委員、どうでしょうか。

○久保委員：それで結構だと思います。大項目1の中にも様々な小項目がありますので、そういうところのマイナスの部分もあると思います。でも、一つの成果としては、きちんと出ているということで、十分に補えているというか、全体としては補えているのではないかと理解しております。

○三和専門委員：国家試験の合格率とか就職率が、教育の計画の結果として出ているのかなというように思いました。ただ、それこそ大学院生の確保とか、支援のあり方みたいところは、いろいろ工夫しながらWebラーニングを取り入れたりとかして、これから、取りかかったばかりなので、今後期待できる部分かなと考えて、期待を込めています。

○吉井委員：評価の段階で達成して非常に高いものと、達成できなかったものというのは、それぞれを合わせて見た場合には、やはり「4」という評価は適切だと思います。

○昆委員長：ただ、ここに一つ、指摘というような強いものではないですが、書かせていただいたものは、やはり県が出資している大学ですので、どうしても県内就職率というところに目がいかざるを得ない部分があると思います。これに対しては、法人も目標としていた数値ですね。例えば、県内就職率については、平成20年度実績52.4%から10%増を目標としたのですが、結果として、平成21年度から50%を切る水準で推移している。ですから、このところの取り組みは、県内の関係機関等との連携でよろしく願いますというようなことは、ここに書かせていただいています。この点についても、学生の意識とか、そうい

うものもなかなか県内の就職状況とか待遇とかいろいろなことを考えると難しい部分もあるかと思いますが。ここは、数値目標として達成していけるかどうかは、難しい部分があるかと思いますが、是非、よろしくお願ひします、ということでございます。ここは、こういうふうな記載でよろしいでしょうか。

それでは、次に大項目2の「研究」の部分において、これも「中期目標を達成している」、「4」という評価にさせていただきます。

これは、非常に項目数が少ないので、4項目の中でB評価が一つ、A評価が三つで、なかなか数字では計り難いところがあります。ただ、いろいろなプロジェクト研究とか、あるいは地域の課題に積極的に取り組みはじめているというようなところ。それから、外部資金獲得や何かのための研修会とかによる成果がきちんとあがってきていると。そして、中期計画で計画されたところは、大体、順調に実施してきていると。あるいは、論文発表とかの面においては、数値的には若干目標としたところに届かなかった部分があるかもしれないですが、全体として見た場合には、法人化前に比べて研究の体制も非常に整い、活発になってきているというところを各委員が評価しており、それでもって「中期目標を達成している」という評価となっております。

これで、特に御意見ございませんか。よろしいですか。ここも「中期目標を達成している」という評価にさせていただきます。

それから、問題は、大項目3の「地域貢献」の部分です。これは、A評価が2項目、B評価が2項目というような形で、数値からいくと「中期目標を達成している」というところまでは、なかなかどうなのかというような意見も結構ありました。ただ、その中で、国際交流などは、東日本大震災の影響等もあるなど、法人独自には対応しきれないような要素もあった。あるいは、「地域貢献」のいろいろな項目の中には、法人が努力するだけでは、なかなかうまくいかない、相手があることなので、数値としては達成できなかった部分もあるのですが、しかしながら、その仕組みや体制などは、かなり整ってきているのではないかと。そういうようなことも踏まえて、この項目の最後のところには、期待も込めてというところもあるかと思いますが、キャリアアップ教育などについても特筆すべき面もあり、その辺のところを拾い出して、「中期目標を達成している」と判断してよいのではないかと意見が結構多かったということでございます。この辺、久保委員、どうですか。

○久保委員：確か、キャリアアップ授業については、希望者がいないとか、あるいは、ほとんど受けるべき人が既に受けてしまった状況だということで、大学の事情ではなくて、やっぱり地域のニーズとして、やるべきことができなかつたという説明もありましたので、そういう地域のニーズと合わせながら様々な授業、プラス新しいものも含めてやっていかなくてはいけないと思っていますので、計画上、多少できなかつたものがあったとしても、これは致し方がないというか、更にまたプラスになるものと考えていただければよろしいのではないかと。現実には、かなり多くの認定看護師を育成したということは、大変な成果だと思っています。

○昆委員長：よろしいですか。それでは、このところも数値的には達成できなかった計画もあるわけですが、ただ、大震災の影響等、そのところを勘案する、あるいは、数値的に達成できなかった部分は法人としては対応しきれない部分もありますので、それらを取り除けば、

中期目標、中期計画の多くのものは順調に達成されているのではないかと。そこを評価しましたということで「中期目標を達成している」としたいと思います。

ただ、委員からも大学側の目標・計画と地域のニーズとか、そういうものをもう少しマッチさせて、目標なども実情に合うような形をお願いします、というようなこともありましたので、その辺のところをよろしくお願ひいたします。

続きまして大項目4の「業務運営の改善及び効率化に関する目標」です。このところは、S又はA評価が100%というように法人も自己評価しています。それで、委員の評価も「中期目標を達成している」というような部分が多かったのですが、中身を見た場合に、数値的に見てみた場合、確かに十分に達成されているものが多いと。ほとんどですね。ただ、中期計画なり、中期目標なりの中身を見た場合に若干心配な点がここに含まれているというところをこの本文に書かせていただいております。

例えば、内部の監査体制などでも、監事監査を中心として行われて、もちろん会計監査なんかはきちんと行われているわけですが、業務の監査などでは、もうちょっと必要などころがあるのではないかという意見もありましたので、より一層の監査業務体制の充実強化に取り組んでいくことが必要ではないかと。どういうことなのかといいますと、中期目標の年度計画などにおいて、いろいろな小項目にしても、B評価だったりするようなものは、相当数出ているような場合に、それをチェックして指摘し、その改善策をきちんと求めるような体制というのがもっとはっきりあってよいのではないかと。なかなか、監事のヒアリングだけですと、そういうところにはチェックが及んでいないのではないかと。ですから、国際交流などにおいても、達成していない部分がB評価と並んだりすると、その辺の指摘が内部のチェックの中で相当出てきてもいいわけです。実際は、役員会議の中なんかで、そういうことは諮られてはいるのだと思うのですが、それを役員会だけの相談ではなく、独立した内部のチェック組織がきちんと指摘し、その改善策をちゃんとつくってくれというように求めることによって、もっと業務の問題点がはっきりしていくとか、そういうところが出てくると思います。

それから、人事の適正化に関するようなところにしても、例えば、プロパー職員を何名にするというようなところは、数値目標は完全に達成しているわけです。ところが、数値目標を達成するのが目標ではなくて、何が目標だったのかというと、事務職員もプロパー化して専門性を備えた職員をきちんと配置することによって、最少の人数でもって最大の効果をあげる組織をつくるってことをいっているわけですが、その目標は達成されていないわけですよ。というのは、臨時職員を含めれば、事務職員の人数は逆に多くなっている。ですから、プロパー化という数値は達成したのだけれども、中身の部分では、職員の年代が30代にドーンと偏ってしまっているわけで、そうすると、職員の専門性というのをどのように考えて採用したのかなということになり、例えば、職員の専門性というのは、国際交流だったら海外の大学なんかとどンドン文書のやり取りをするなど、電話一本で連絡調整ができるような職員を採用し配置したのかとか、そういうようなところが見られるのだらうと思うのです。

ですから、そういうようなところを数値的にはクリアしていても、中身の部分で心配なところがありますよというのは、ここに書かせていただいたということでございます。

しかしながら、全体としては「中期目標を達成している」というのが、大方の御意見でございますので、この評価もそれによろしいでしょうか。それでは、ここも「中期目標を達

成している」とさせていただきます。

それから、大項目5の「財務内容の改善に関する目標を達成するための計画」ですが、財務内容は非常に効率化とか、そういうコスト削減プランにしましても、順調に進んだと。それから、研究資金につきましては、外部資金の導入等も順調に進んだと。ただ、一旦、外部資金というのは、こう上がってしまいますと、その後、いつまでも右肩上がりというわけにもいきませんので、そこは若干の変動があったとしても、それは致し方のないところです。今後は、大きなプロジェクト型の研究とか、そういうものでもいろいろな対応していくということになるかと思えます。

ただ、コスト削減プランも、教員を募集しても、なかなか埋められなかったというので、その分の人件費の隙間があったりした部分があるのですが、今後、それらが埋まってしまって、そしてもう効率化できるところはギリギリ絞って効率化してしまっていますと、これから先の効率化というのは、なかなか大学としても大変なところもあると思えますので、そこは是非、教育研究業務に支障がでない程度のうまい効率化でやっていただければと要望といいますか、そういうことでございます。

ここも、「中期目標を達成している」と各委員が評価していますので、それでよろしいでしょうか。

それから、大項目6の「点検及び評価並びに情報の提供」に関しては、いろいろな仕組みが整理され、各項目ともに順調に実施されているということから、各委員が「中期目標を達成している」と評価しています。そういうふうに評価も書かせていただきましたが、何か付け加えることや訂正などありますか。よろしいでしょうか。

それでは、最後、大項目7の「その他業務運営に関する重要目標」というものも、これも各項目ともに問題なく目標は達成されたと各委員は評価していますので、「中期目標は達成している」と、そういう評価でございますが、よろしいでしょうか。

それでは、項目別評価は、全ての大項目が「中期目標を達成している」という評価でございます。

そして、3ページに戻っていただきまして、「全体評価」でございます。「総評」のところの最初の段落には、役割を書いておきまして、それから、第2段落では、中期目標において教育研究についての様々な成果と、それから業務運営、財務内容等についても、改善等が図られていると。そして、ここに書いている「総じて中期計画に定めた事項を着実に実施していると判断され、中期目標を達成していると評価できる」というところの「総じて」というのは、一部中期計画の中には、数値目標や何かで達成できなかった部分があるにしても、全体として評価した場合には、着実に実施したというふうに委員会としては評価したというようなことでございます。

それで、一部、計画の中に達成できなかった、十分ではなかったというような、そういう部分については、各大項目の中の文案の中を書くというふうにさせていただいているということです。この「全体評価」の「総評」では、それらを総合的に勘案した場合には、十分、「中期目標を達成している」と評価するというようなことでございます。

それから、「業務の実施状況」というのも同じであり、いろいろ進められた取り組みというところが、そこに項目別に書かれているのですが、特に、財務内容の改善、経費削減等に関する取り組みについては、中期計画における目標を上回る結果となっているところ

す。

それで、「組織、業務運営等に係る改善事項等」というのは、全体として見た場合には、特に指摘するものはないということでもって、組織、業務運営等に係る改善事項はなしということで判断させていただきました。このようなまとめとなりますが、いかがでしょうか。

これで、第一期中期目標期間業務実績評価も終了となります。

せっかくの機会ですので、法人のほうでも何かございますか。

○**保健大学**：過大な評価をいただき、ありがとうございます。昆委員長はじめ、委員の皆さまには、平成25年度の業務実績評価、それから第一期中期目標期間6年間の業務実績評価という、二つの評価をしていただきました。評価にあたりましては、多大な時間、それから多大な労力をかけていただいたと思っております。その上で、過大な評価をいただいたと判断しております。

平成25年度評価につきましては、先ほどから議論がございましたように、第一期の最終年度ということで、第一期中期計画を全てやっつけてしまおうというようなことがございましたので、どうしても平成25年度の計画は目標設定が高くなってしまったということがございました。そういう意味で、数字との乖離が多々見られたということの指摘をいただきました。

第一期中期6年間におきましては、大学といたしましても、できなかったところはもちろんございますが、委員の御判断、御配慮をいただきまして、このような形の評価をいただけたことをとてもありがたく思っております。

第二期中期が始まっております。今年度、1年目ということでございます。第一期中期の実績評価をどの程度反映できるかということがございます。幸いにいたしまして、昨年度、5年間の評価、総論的な評価をいただきまして、その内容を第二期の目標、それから計画に落とし込んでおりますので、御心配はあるとは存じますけれども、その御心配を払しょくできるような形で、第二期中期、大学一丸となって目指していきたいと思っておりますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

○**昆委員長**：中期目標期間評価のほうも、細かい文言の訂正等がありましたら事務局と委員長で相談させていただくということで対応したいと思います。

それでは、保健大学の審議はこれで終わります。

《 休 憩 》

3 青森県産業技術センターの平成25年度業務実績評価について

○**昆委員長**：それでは、議題3、「平成25年度業務実績評価について」審議を行います。この業務実績に関する事業年度の評価は、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査・分析を行いまして、その結果を考慮して業務の全体について総合的な評定を行うということになっております。

先般、法人から提出された平成25年度業務実績報告書に基づきまして、法人のヒアリン

グという形で調査・分析を行いました。それを各委員に参考にしていただきまして、評価意見を事務局に提出していただきまして、それを事務局でまとめたものを案として作成しております。

資料3を御覧ください。事務局が委員の意見をまとめ作成した評価書案でございます。この案をもとに、今回、修正や意見交換をしていきたいと思っております。3ページ、4ページには「全体評価」が書かれております。まず、5ページからの「項目別評価」に沿って意見交換し、それが終わった後で全体の評価に係る意見をまとめると、そのような進め方で参りたいと思っております。

大項目1、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（試験・研究開発の推進）」というところでございます。これにつきまして、計画を上回って実施できたというS評価、それから、計画を順調に実施したというA評価という、S又はA評価の割合は、法人の自己評価でも100%ということであり、各委員の意見も伺いましたところ、法人の評価と同様に順調に実施されているのではないかという意見がほとんどでございます。

ここでは、評価が「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況である」という評価案となっておりますが、これについて、委員のご意見を伺いたいと思っております。いかがでしょうか。

○大関専門委員：この大項目1ですが、水稲疎植栽培という方法と、直播栽培というものと両方取り組んでいるように思うのですが、この2つの栽培方法は異なるものだと思うのですが、本県ではどちらのほうに力を入れていこうとお考えなのでしょうか。

○産業技術センター：疎植栽培と直播の部分については、疎植栽培は、例えば、規模が小さい農家でもある程度取り組めるという特徴がございます。大規模農家にとりましては、直播栽培を導入していただければ、効果的です。

それと、疎植栽培も大規模になりますと、経営に取り入れることができます。それを組み合わせることによって、全体の規模を拡大していくということで、両方ともある程度進めていく。どちらか一つということではなくて、そういう使い分けがきちんとできますので、そういう対応をしていきたいと考えております。

○大関専門委員：何かV溝直播栽培を開発したという言葉が中期の評価に書かれていましたが、これは県として開発されたということであれば、実績なのかなと思いましたが、ここを見ると片一方しかないのです、どうかなと思ったので。分かりました。

○昆委員長：他にいかがでしょうか。ここにも「87項目246課題の研究事業が着実に実施され」となっておりまして、それで、「特に」というところに幾つか書いてあるわけですが、非常に項目が多いものですから、「特に」というのを拾い出したにしましても、あれも、これもと拾い出したいところではあるのですが、なかなかそれも難しいところがあるのですけれども、全体として皆さん「順調な進捗状況にある」と判断しているということですが、それでよろしいでしょうか。それでは、特に御意見がなければ、この大項目1は「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」と判断させていただきます。

それでは、続きまして大項目の2、「産業活動・製品開発等への支援」です。これも、法人の自己評価ではS又はA評価が100%となっており、委員の評価も「順調な進捗状況である」と。しかも、総合的に勘案しましても、中期目標を超えて達成しているのではないかという意見もありました。そういう状況ですが、大方の意見としまして、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」と、ここでは判定しております。

ただ、その中期計画を超えて達成しているという意見もありました。鈴木委員、どうでしょう。

○鈴木専門委員：S評価もあったので、少し上げさせていただきました。資料のとおりでよろしいかと思います。

○久保委員：達成率がすごく高いので、本当に「超えて」ということでもいいのかと思うのですが、数字だけではなくて、内容的にそこまでいけないものがあるのであれば「4」かなという、そのような感覚なのですが、そのあたりが大変判断が難しいなと思っております。

○昆委員長：「4」の「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」という評価ですが、達成率は高いというふうに考えてよろしいのではないかと思います。委員会としても、これでもよろしいでしょうか。

○吉井委員：「4.5」とか、そういう表現ができるのであれば、「4.5」とか。かなり研究成果をあげた結果、それはどんどん未来の経済に繋がっていくような取り組みというのがすごく感じ取れますので、「4」でいいと思います。

○昆委員長：ここは、「4.5」というわけにはいかないのです。

それから、続きまして、大項目3の「成果の移転・普及」に関してです。「成果の移転・普及」のところも、自己評価でもS又はA評価が100%であり、それから、委員会の評価としても、「順調な進捗状況である」というように委員全員が評価しています。したがって、この評価も「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」となっておりますが、委員から御意見はございますか。この文言も含めまして、よろしいですか。

それでは、次、大項目4に移りまして、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」というところです。これも、法人の自己評価としましては、ここもS又はA評価が100%ということでございます。業務運営についても、「順調な進捗状況にある」というようなことであり、これも委員の中には、非常に高い評価をつけている方もおります。ですから、平均してみても非常に高いレベルの「4」ということではないかと思いますが、これについて、いかがですか。

○大関専門委員：内容ではなくて文言なのですが。全体に見させていただいて、極めて多岐に渡る課題についての的確に解決に向けて努力されておられるということに心から敬意を表するわけですが、こういった立派な成果については、やはり県民に分かりやすく的確に伝えるということも、このセンターの大切な役割ではないかと思っております。そういう観点から、私、皆さ

んにしてみれば、「なんだそんなこと」と思われるような文言のことについてもいろいろと御意見を申し上げて参りました。

ここで一つ、言葉のことで恐縮なのですが、「各試験研究部門による一体性の確保」という言葉がございますね。上から5行目ですね。この「各試験研究部門による一体性の確保」という言葉、これはどこにあるかという、他にもあるわけですが、結局、業務実績報告書の大項目の4、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」の中の中項目にあたるところに、「各試験研究部門による一体性の確保」という文言があります。ロードマップですと、83ページに「各試験研究部門による一体性の確保」という言葉があります。この「各」というのと、「一体性」というのが、ちょっと合わないと思うのですね。このロードマップにある文言は、全てといたらおかしいですけども、業務実績報告書にももちろんあるわけです。この言葉を素直に聞くと、「各試験研究部門による一体性の確保」というと、各試験研究部門内の一体性じゃないかって受け取られかねない表現ではないかと、私は思ったのです。

しかし、ここで言いたいことはそうではなくて、センターとして、組織として一体性を確保したいということだと思えるのですね。ですから、それが伝わるように、つまり、評価書に書いてあるのは、「各試験研究部門による」と同じ文言を使ってあるわけですが、やはりこの「一体性の確保」をしたい主体は、センターである。そこを分かるような表現が必要なのではないかと、私はそう思ったのですが、他の委員の皆さんはいかがですか。

○**昆委員長**：今、大関委員の指摘されたような趣旨でよろしいわけですね。センターとしては。

○**産業技術センター**：そうですね。我々としては、各部門単位でそれぞれまとまってやれということになると、全体で各部門を統合した意味というのはあまりないわけですから、従来の県の取り組みと少なくとも同じ。ですから、ここはあくまでも部門間連携です。連携して皆さん一緒にセンター全体で取り組みましょうという意味であり、大関委員の御指摘のとおりです。

○**大関専門委員**：ですから、私としては、「各試験研究部門の連携による」とか、言葉を加えたら良いのではないかと思います。

○**昆委員長**：ここは、中期計画とか、そういうのではないから、ここで文言を修正するのは、もちろん構わないわけですので、今、大関委員が言われるように、読む人にきちんと伝わるようにというのであれば、「あとで」というよりも、今、ここで修正してしまったほうがいいのではないかと思います。どんなふうに修正すればよいでしょうか。

○**大関専門委員**：何か、中期の評価を見ると「横断的」という言葉も使われているので、もっと枠を外したというか。一番素直なのは、「各試験研究部門の連携による」ということではないかと。

○**昆委員長**：「各試験研究部門の連携による」ですか。センターのほうは、どうでしょうか。

○産業技術センター：その前の「組織運営」というところからみますと、そういうふうに「部門間連携」という「連携」という言葉が入っているので、むしろ「研究部門による」というのが必要なかどうか。

○大関専門委員：そうでした。ここは、実は、ちょっと先走って申し訳ないです。これは、「全体評価」の「総評」に入っている言葉なのですよね。そこで、私がさっき言ったようなほうがいいのではと思ったのですけれど。ここは、まさにおっしゃるとおり「部門間連携」という枠組みの中の言葉なのです。ですから、ここはむしろ「各」を取っちゃって、「試験研究部門間の一体性の確保」とか。

○昆委員長：センターとしては、「各試験研究部門による」というところをポンと取ってもいいのではないかということですね。どうでしょう、段落の1行目の方に「部門間連携を重視する」というのがありますので、2行目の「各試験研究部門による」というところを取って、「一体性の確保に取り組んでいると評価できる」というような記載にしてしまうと。

○産業技術センター：主語が「組織運営については」ですから、それを受けることができるのではないかなと思います。

○昆委員長：「組織運営について」は、「一体性の確保に取り組んでいる」と。そうすると、「各試験研究部門による」というものを取ってしまうと。よろしいでしょうか。事務局で、その修正をお願いします。そして、「全体評価」のところでもまた、よろしくをお願いします。あと、この部分に関してはいかがでしょうか。よろしいですか。そうしますと、ここも「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」ということで評価を確定させていただきたいと思います。

続きまして、大項目5、「財務内容の改善に関する目標に係る必要な事項」ですが、これもしっかりと実施されておりまして、自己評価でもS又はA評価が100%ということがございます。それで委員の皆さんの評価も、「順調な進捗状況にある」ということです。特に、外部資金の獲得等についても、実績がここに書かれておりますし、順調ではないかというのが、委員の皆さまの評価意見ですが、この記載につきまして、御意見、御質問がございましたら。よろしいですか。それでは、ここも「順調な進捗状況にある」と評価させていただきます。

最後、大項目6の「その他業務運営に関する重要目標に係る必要な事項」ですが、これも、特に問題なく順調に進んでいるということで、自己評価もS又はA評価が100%ですし、委員からの評価も特に問題ないということです。ここについてはいかがでしょうか。「順調な進捗状況」でよろしいですか。

それでは、全て「順調な進捗状況にある」という評価でございますが、中には非常に高いレベルの「4」というものもあるということでございます。

それで、3ページの「全体評価」に移っていただきまして、第2段落でしょうか、ここも「一体性の確保」という文言もございますので、まず、先ほどのこととつなげまして、大関

委員からお願いします。

○大関専門委員：先ほど、「連携」という言葉を入れたらいいと申したのは、実はこの場所のことでした。何か必要ではないかなと思っております。

○昆委員長：ここは、先ほどの大項目4のところのように、「組織運営については」とか、前の文言はないわけですが。そうすると、今、大関委員の御指摘では、「各試験研究部門による一体性の確保」というところを「各試験研究部門の連携による」というような感じではいかがだろうかということなのですが、センターの方はいかがですか。

○産業技術センター：それでよろしいと思います。

○大関専門委員：「各試験研究部門」を取って、「組織運営の一体性の確保」ということだけではだめですか。

○昆委員長：先ほどのと同じように。

○大関専門委員：一体性の主体が何かというのを入れた方が良いのでは。しかし、「部門の連携による」と言えばまあ、わかりますね。

○昆委員長：「体制の整備や各試験研究部門の連携による」と。

○大関専門委員：それを使えば、「一体性の確保」でいいと思う。繋がっていると思いますね。

○昆委員長：では、センターのほうもそれでよろしいですか。

○産業技術センター：その前段の「体制の整備」というところも組織運営に入るのではないかなという感じがしますけれども。言葉をそこに入れるというのは、やっぱり「連携」のほうが私はいいのではないかと。

○昆委員長：「連携」のほうがいいと。最終的にどういうふうになりますか。

○大関専門委員：私が、もし提案させていただくなら、「各試験研究部門の連携による」と「連携」を入れたらと。

○昆委員長：センターもこういう表現でよろしいでしょうか。

○産業技術センター：了解です。

○昆委員長：では、事務局で修正をお願いします。

こういうことでもって、「中期計画の目標達成に向けて、着実に年度計画を実施したと評価したということでございます。

それから、「業務の実施状況」のほうは、一つ一つの取り組んだ特色ある部分を箇条書きにしています。これも非常に多くのものであるわけですので、何を選抜して書くかというのは、非常に難しいところがあるのですが。センターとしては、「いやいや、こういうのではなくて、こっちのほうがいいんじゃないか」というのがあるかもしれないですが。委員の方はいかがでしょうか。「実施状況」については、書き出すときりがないようになりますので、特に問題がなければ、これでよしとさせていただきます。

それで、全ての項目について「順調な進捗状況」でございますので、3の「組織、業務運営に係る改善事項等」は、改善事項はないと、そういう判断でございます。

以上が平成25年度の業務実績評価書案でございますが、これで「案」を取ってよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきます。

細かい字句の修正等が生じた場合には、事務局と委員長で対応させていただくということでよろしくお願いいたします。

それでは、これで平成25年度の業務実績評価書案の審議を終わります。

4 青森県産業技術センターの第一期中期目標期間業務実績評価について

○**昆委員長**：それでは、今度は議題の4、「第一期中期目標期間業務実績評価について」です。この業務実績に関する中期目標期間評価ですけれども、中期目標の達成状況の調査・分析を行い、その結果を考慮して総合的な評定を行うこととし、これも5段階評価ですが、ヒアリング等を踏まえまして、各委員の意見を事務局に提出して、それを事務局でまとめて、この期間評価の業務実績評価書案を作成いたしました。

それで、先ほどと同じように、「項目別評価」からチェックしていきまして、最終的に「全体評価」を見ていきたいと思えます。年度評価においては、次年度に挽回したりとか、修正したりとか、いろいろあるのですが、この期間の実績評価は、これで第一期の評価を確定するということであり、委員会としても、なぜこのような評価にしたかという理由をきちんとしておかなければならないところもあるかと思えます。

それでは、まず、大項目1でございますが、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（試験・研究開発の推進）」というところですが、ここも期間評価の実績に関しまして、自己評価も非常に高いものがございまして、これもS又はA評価が100%でございます。それで、委員の評価も「中期目標を達成している」という評価です。その内容につきましては、そこで、文言で書かれておりまして、特記事項のように高く評価できるようなものなどが書かれておりますが、これにつきまして、委員の御意見や修正意見、あるいは文言に対しての意見でも結構ですので、ありましたら提案願いたいのですが、いかがでしょうか。

○**大関専門委員**：ここで、先ほど質問させていただいた「水稻疎植栽培」と「水稻V溝乾田直播栽培」、その技術は別々に評価されているというのは、平成25年度の評価では、「水稻疎植栽培」を取り上げて、第一期中期の期間評価ということになると、「水稻V溝乾田直播栽培」

というのが取り上げられているのですが、このあたりの考え方を説明いただければありがたいのですが。

○**昆委員長**：このところは、法人のほうがこの文章をまとめられたというよりも、事務局のほうで原案を拾い出して作ったところですので、これは、事務局としては、いろんな分野のところをバランス良くといいますか、特記事項をバランス良く配置したいというようなことがあったのではないかと思います。

○**大関専門委員**：そうであれば、センターの意見をお伺いしたほうがいいのではないのでしょうか。

○**昆委員長**：この辺のところ、こういう表現でもって特に違和感ありやなしやというふうなところを、委員会案について、記載の仕方でも不自然な点がないかどうか、むしろセンターの専門の方から見て、いかがでしょうか。

○**産業技術センター**：やはり、これからの稲作経営を考えるということになりますと、大規模で低コストを考えないといけないという観点からすると、V溝の乾田直播栽培というのは、普通栽培や疎植栽培より省力的です。作業的にもこちらのほうは苗を作らなくても済むわけですから。それから、収穫時期も普通栽培と疎植栽培のほうを先に刈り取って、後でこちらのほうを刈り取ることができるということが出来ます。経営的な要素を考えますと、疎植栽培も様々な組み合わせ方というのがありますけれども、将来を考えれば、V溝の乾田直播栽培のほうが効果が大きいのではないかと思います。

○**昆委員長**：開発したということを経済評価の中に書いてもよいのでしょうか。

○**産業技術センター**：それから、疎植栽培は、平成25年度からで、V溝乾田直播栽培はもっと早くできているわけですから、第一期の業務実績報告書ではこのような記載にしました。

○**昆委員長**：よろしいでしょうか。

○**久保委員**：選んだことについては、よく分からないので。これは「プロテオグリカン」というのは、商品がたくさんできたというのが分かるくらいなので、これは専門の方にお任せします。評価としては、このように差し支えないと思います。

○**昆委員長**：このところは、各委員が評価して、この辺は高く評価できるのではないかとこのところを事務局の方に拾い出していただいたところもあります。ですから、センターの場合は、いろんな分野にいろんなものがあるものですから、どこを拾い出すかというのは、なかなか難しい部分があるのですが。ほかにも良いものはいろいろあるのですけれども、その一部だということです。それでは、この大項目1は、「中期目標を達成している」ということで評価を確定させていただきます。

それから、大項目2のところの「産業活動・製品開発等への支援」というところも、これ

も各委員は、十分に「中期目標を達成している」と評価しておりまして、全く問題がないのですが。あと、ここに対して追加する御意見や文章の修正など、そういう御意見とかがございましたら提案願いたいのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次、大項目3に移りまして、「成果の移転・普及」というところも、これも「中期目標を達成している」と。法人の自己評価でも高いものがございます。このところも、センターのほうで始められました紹介ビデオの作成ですとか、YouTubeの利用ですとか、幾つかのことをここに特記事項のように並べてあります。いかがですか。よろしいでしょうか。それでは、大項目3も「中期目標を達成している」ということとします。

それから大項目4の「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」というところでも、「中期目標を達成している」という評価でございます。ここも、委員からは、非常に高い評価をいただいております。ですから「4」なのですが、「5」というふうに評価したほうがいいのではないかという意見も結構ありました。いろいろ業務運営に関しましては、多くの事業場をまとめられてロードマップを作成し、予算配分等も効率的にと。独立行政法人化したメリットを活かして、取り組みが計画どおりに実施されたということです。いかがでしょうか。特に御意見ございませんか。それでは、これも「中期目標を達成している」ということとします。

次に大項目5の「財務内容の改善に関する目標」ですが、これも、運営経費の効率化、あるいは外部資金の導入、それらが順調に進んだということでございまして、「中期目標を達成している」と、そういう評価となっております。いかがでしょうか。これも、委員の評価も十分に達成しているという意見が全員でございまして、よろしいですか。

それでは、次に大項目6、「その他業務運営に係る重要目標」ですが、これもセンターが設定しました中期計画というのは、全て達成されてございまして、これも着実に実施していると認められることから、「中期目標を達成している」と評価できるという、そういう委員会評価でございますが、これにつきましても、何か委員から付け加えることとかございますか。よろしいですか。

そうしますと、各大項目につきまして、若干足りないのではないかといいところは一つもありませんでしたので、非常に順調に計画は実施された。したがって、順調な進捗状況であると、その結果、「中期目標を達成している」ということになっております。

それを踏まえまして、3ページに移っていただきまして「全体評価」でございますが、その1段落目でセンターが目標としているところ。そして、第一期中期目標期間においては、各項目、部門におきまして、「中期計画に定めた事項を着実に実施」したというふうに判断できると。したがって、「中期目標を達成していると評価できる」という結論を書いています。それから、最後のところの段落では、引き続いて実施していただきたいことと、「第二期中期目標・中期計画の達成に向けて、PDCAサイクルを活用したよりの確な目標設定や実績等の評価・分析を実施し」というところは、これは委員会からのお願い、希望と受け取っていただければよろしいかと思えます。

それから、「業務の実施状況」につきましては、先ほども述べましたように、各大項目におきましての特記事項というようなところをそこに載せてあるわけですが、これ以外にもセンターの場合には、多くの項目で特記事項に該当するであろうというようなことがございましたが、その中でも「特に」と思われるような部分を取り上げて評価させていただいたという

こととございます。

以上のようなところから、「組織、業務運営等に係る改善事項等」としましては、改善勧告を要する事項なしということとございます。

これが、「全体評価」の概要でございますけれども、委員の皆さまから御意見や御質問がございましたらどうぞ。よろしいですか。

○鈴木専門委員：今回の件とは関係ないのですが、平成21年度から25年度の業務実績報告書の様式に「特記事項」の項目があります。その一部が、今の「全体評価」のところに載せられていると思うのですが、これにちょっと戸惑いました。「特記事項」とは、どういうことを記載すべき項目なのかについて、理解が十分でないのかもしれませんが、目標達成して何なにを開発したという事項は、入らないのではないかと思います。「特記」ですので、目標以上に成果があがったものを書くべき欄ではないかと、私は理解しているのですが。

現在、記載しているものを見ますと、成果の概要が単に箇条書きになっているのではないかと思います。全ての項目をここに書かれると、何が特別に達成されたのか読み取るのが大変になります。

例えば、この特記項目の中に、各研究部門で、予想以上の成果があがったのはここです、と書いていただくと、委員も非常に目標を絞りやすくなって、実際にそういう成果が出ているかどうかを確認して、センターの自己評価がA評価だけど、S評価でいいんじゃないですかというふうな意見を述べやすくなる。

私は、特記事項というのは、そういうものだと思っていたのですが、ちょっと今回、様式では、そういう整理がされていなくて、評価する側から言わせていただくと、今、申し上げたように、たくさんあげたいのかもしれませんが、ここがミソだよというところをあげていただくと、我々、中身を理解するのに、専門的に理解できなくても、これはすごく高く評価できる項目なのだろうと、そういう理解の仕方がしやすくなるので。その辺、ちょっと今回、携わって感じたことがありましたので、お話させていただきました。

○昆委員長：確かに、今まで、どのようなものを特記事項とするかということに対しては、きちんとした議論というか、確認というものがなされていないということは確かですね。ですから、今までですと、法人のほうで特別に強調したい成果というか、そういうところを書いていただくというような漠然としたニュアンスでまとめてこられた部分が、委員会もそういう形で受け取ってきたところがあるので、確かにはっきりしない、曖昧なところがそこにあるので、これ、第二期のときには、特記事項にはある程度、「こうこう、こういうものを書きましょう」というような合意があれば、評価する側もされる側も確かに非常にやりやすくなるという、今の御提案の趣旨もそうじゃないかと思うんですが、そこを煮詰める必要があると思います。

通常のものに比べて、目標を達成し、更に踏み込んで、もっとたくさん成果をあげることができたというところを特記事項とするのか、あるいは、元々の目標の中にウエートのようなものがあって、これを達成するのは、非常に重大なことなんだというようなものを特記事項とするのかとか。その辺の議論が第二期の実績のまとめを行う中で作っていく必要があるという、今の御提案は、非常に大事なことではないかと思っておりますので、そこは継続して確認

して、しっかりしたものにしていければよろしいのではないかと思います。

○産業技術センター：確かに、作業している段階で同じようなことが繰り返されるって、ちょっと我々も変だなということを感じていましたので、恐らくそういう整理の仕方をするのであれば、わかりやすいと思います。ただ、どういう形で、何をどう取り上げるかというのは、来年、詰めていきたいと思います。

○昆委員長：あと、特記事項がある種こういうものですよ、という位置付けがはっきりして、本当に特記事項に書かれていることが重要なことであるということが了解されていると、評価する側も非常に見やすいということになると思います。ここは、一つ宿題として。今、鈴木委員の御提案は、中期計画、年度計画の、計画をかなり上回ってやったところを特記事項とするという趣旨だと思います。

○鈴木専門委員：目標を設定したのであれば、それがかまわないのですが。それ以上の成果があったところを書いていただくと、それが本当かどうかを確認して、A評価よりS評価じゃないかというふうに我々が判断しやすくなるのではないかと。

○昆委員長：そうすると、特記事項に書けるような内容というのは、年度の実績評価なんかでいいますと、S評価にかかるような事項となりますか。

○鈴木専門委員：ですから、特記事項は、記載がなくてもいいのです。なくてもA評価なのであり、記載があるということは、我々はプラスに評価する材料がこれだけあるのだなということが一目瞭然で分かりますので、評価の方もしやすくなります。

○昆委員長：次回までには、そういうところを煮詰めていただくこととします。

○鈴木専門委員：結果の概要とは別に特記事項を位置付けていただいて、特記事項に記載があるということは、A評価以上だというふうに我々はすぐレベルを判断できる形になるので、仕組みとしては、こちらとしては大変助かります。概要は概要で、今のようにやっていただくのは別に構わないのですが、これが特記事項と位置付けられると、前とどこが違うのかということがとても分かりづらいものです。そういうことで意見をちょっと述べさせていただきました。

○昆委員長：ありがとうございました。そのほかに「全体評価」に関してございますか。もしないようでしたら、「全体評価」も含めまして、第一期中期目標期間業務実績評価書案の「案」を取って、これを確定とさせていただいてよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきます。

あとで、ちょっとした字句の修正とか、そういうものが出て参りましたら、事務局と委員長のほうで対応するということにさせていただいてよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきます。

これで産業技術センター関係の平成25年度評価と第一期中期目標期間評価の審議は全て終わりました。

○大関専門委員：一ついいですか。これ、ちょっと質問だけなのですが、今、御審議いただいた平成21年度から25年度までの業務実績評価書の8ページに平成30年度までの行程表である「青森県産業技術センター研究所目標・ロードマップ」という記述がありますが、これは、私ども、目にしたことがあるのでしょうか。この会議に出てきたことがありましたでしょうか。もっとも、私は去年からしかいないからかもしれませんが。

○昆委員長：ロードマップは、あの分厚いやつが。去年の前でしたでしょうか。

○産業技術センター：最初に出したときの資料です。

○昆委員長：かなり厚い、その中に、あれは平成30年度まででしたか。

○産業技術センター：最初、30年度まで作りました。

○昆委員長：第一期の、資料の中に。

○大関専門委員：分かりました。私は見たことがないのですよね。

○昆委員長：各委員に渡っているのでは、ロードマップって。

○産業技術センター：委員が代わられましたので、前の委員には配ってあったのかもしれませんが、今の委員には、ちょっと渡っていなかったかもしれません。

○大関専門委員：それはそれで分かりました。

○昆委員長：配付したかどうかを確認していただいて、もしも専門委員の方々に渡っていないようでしたらお願いします。

○大関専門委員：いやいや、結構です。平成25年度までのロードマップがありますので。私が関係するのはそこまでだと思いますので、それはそれでいいのですけれども。

もう一ついいですか。今のロードマップ、なぜそういう質問をしたかということですが、平成25年度までのロードマップというのは、私も見ているわけですが、それを見ますと、どういう研究が行なわれているのか、行なわれていくのか、そういうことが一目瞭然分かるようによく整理されていると思います。

ところが一つだけ、ロードマップの平成25年度あたりを見ていて、情報としてあればいいなと思うのが、その課題が継続されていくものかどうか、次年度以降、継続されるものなのかどうかということが分からない。何年度から何年度までの課題であるということは分か

るし、それが今まで何年度から継続されている課題かというのも分かる。途中から新規に加わった課題だということも分かるのですが、何年度まで続くのかが分からない。

ですから、その情報を何か、最後の欄に備考でも設けて、「次年度以降継続」とか入れておいていただければ分かりやすいのではないかと思います。第一期中期計画ロードマップというのを見てみると、「個票記載ページ」というのは、実は空いています。「記載ページ」には何の記述もないので、この欄は空いているので、これを一番後ろに持って行って、備考か何かにして、「次年度以降継続」という言葉を入れる欄に使っていただければいいのかなと思いました。ロードマップを見たときに、こういう研究をやっているのだなというのは分かるのですが、何年度で終わるんだなというのが分からないし、継続しているのかな、というのも分からない。スタートは分かる。途中経過も分かるのだけれども、終わったのか、継続なのか分からないというふうになっていますので、それを分かりやすくしていただければありがたいと思いました。ですから、平成30年度までのなら、それが分かるのではと思ったからです。

○産業技術センター：研究の推進に関して補足させていただきます。今回の実績報告書の中には、確実に継続しているものは、きちんと自己評価のところに、下の欄に、このことについては、きちんと課題として継続するものは継続すると書かれています。そのほかは、内容として継続だというような表現の2種類の使い分けをしております。中身については、別な課題で取り組むのがありますので、そういう表記はしてあります。ですから、完全に継続するものは継続するというふうに書いております。ちょっと、年数ではきちんと見られないですけれども。

○大関専門委員：それはロードマップではないですね。ロードマップに書いてあるわけではなくて、別の資料に書かれています。

○産業技術センター：実績報告書の中に。

○大関専門委員：業務実績報告書の中に書いてあるのですよね。

○産業技術センター：平成26年度からの、今年からのロードマップは、もう既に提出されて検討されていますが、第二期としては、全て、ほとんどが組み換えをしています。つまり、第二期の研究方針は、大きなロードマップは同じなんですけど、課題名の変更とか統一とか、そういうふうなことになっていますので、確実に同じ課題でやっているというのが見えにくくなっています。ただ、今、話したように、同じ課題でやっているのは、きちんと同じ課題でやっているというふうな表現をしています。

ですから、第二期のロードマップを見てもらえば、継続されている、そのまま継続しているものは、何課題かは残っているという形で。

○大関専門委員：要するに今年度から継続した課題という意味ですか。

それから、もう一ついいですか。私、前回かな、前々回かな、「単年」というのは意味がな

いのではないかという言い方をしましたが、失礼なことを申し上げたなと思いました。「単年」というのは、意味があるのですね。ロードマップを見たときに、全く同じ課題なのだけれども、年度によって縦線が入っていないのと、入っているものがあるんですね。その縦線が入っているものは、単年扱いだということを初めて知ったのですけれども、そうしたら「単年」というのは意味があるのかなと、改めて思いました。そういう説明は、やっぱり必要なのではないのでしょうか。こういうものを見たときに、どうやって見たらいいのか。

例えば、先ほどページの記載がないと言いましたが、ページ欄はないほうが良いと私は思うんですよ。だから、「個票記載ページ」なんていう欄は作らないほうが良いと思いますけれども、こうやって見ると、なぜないのだろうと思うし、あるいは、報告書の項目ナンバーというのは、小項目の番号がある。同じ番号がある。例えば、「33」なら、「33」が並んでいるわけですよ。中身は「33の1」とか「2」になっている。ところが、「33」という頭があって、「33の1」というものが入ってくるわけですよ。それ、なぜなんだっていったら、それが再掲なのですよ。その辺の説明を予めしておいていただければ、私ももうちょっと変なことを言わないで済んだかなと思いました。

未だに、私は、その「単年」というのは「新規」で、その年度に終わったものだと思っていますけれども、実は「新規」でないですね。そこを私は間違っていたかなと思ひまして、どうも失礼いたしました。失礼いたしましたけれども、そういう説明はなかった。私が質問して初めて出てきた説明ですので、疑問に持たない人には全く分からない。本当に分からないことだと思いました。

○**昆委員長**：言葉の使い方と、ある種の冊子にまとめた場合には、その読み方などの説明のようなどころですね。それを是非、お願いできればということでございます。

あと、委員の皆さま、どうでしょう。では、もしなければこれで確定ということですけども。

あと、特にこれで評価の関連は最後になるかと思いますが、あとは知事への報告ということですので、最後の機会かと思ひますので、法人のほうから何かございましたら。

○**産業技術センター**：このような機会というのは、今年度はないと思ひますので、まず改めてこのように良い結果をいただいたということについては、我々も光栄ですし、職員もかなり励みになると思ひます。本当にありがとうございました。

平成25年度というのは、第一期目の最終年ということで、総仕上げの年だということで最初からはっぱをかけて、やり残したことはないのかということで徹底してやってきました。それから第一期の5年間というのは、やっぱり法人のスタート、立ち上げがメインでありまして、立ち上げて組織をうまく機能させるということに力を注いできたわけです。それで年度ごとに様々な工夫をしながら、いろんな種を蒔いて実らせるといいますか、そういう方向で取り組んできました。

その結果として、この方法がベストなのかということはあると思いますけれども、様々取り組むことによって、私自身は次の課題も見えてくると。やり方を変更していけば、もっと違う成果も出てくるのではないかと、そういうふうに思ひます。

それから、いろいろ委員の皆さまからも御指摘されているように、PR部分については、

もっと少し工夫を凝らしながら力を入れていかなければいけないなと思っております。その辺の課題につきましては、第二期の中で、またいろいろやりながら成果をあげていきたいと思っております。

今後とも、御指導よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○**昆委員長**：それでは、これをもちまして、平成26年度第4回青森県地方独立行政法人評価委員会を終了いたします。